



自然の魅力に溢れるコスタリカ プラビダ ～ Pura Vida ～



サンホセ日本人学校 ロス久美子

「なんでこんなところに、タランチュラ？」赴任後初めての日直の朝、職員室入り口で待っていたものは手のひらサイズくらいの黒い蜘蛛、タランチュラでした。

ここコスタリカ共和国、通称コスタリカは東西を太平洋とカリブ海に囲まれ、中央には山脈が連なる自然豊かな国です。国名の「コスタリカ (Costa Rica)」とはスペイン語で「富める海岸」という意味で、北側はニカラグア、南側はパナマと接しており、約51,000平方kmという国土面積は、日本の四国と九州を合わせた面積と同じぐらいの小さな国です。そんなコスタリカですが豊かな自然環境・生態系に恵まれており、地球上の全動植物の約5%が生息していると言われています。ウミガメの世界的産卵地でもあり、手塚治虫氏の作品『火の鳥』のモデルとも言われているケツァールなどカラフルな鳥類も多く見られることで有名でもあります。また自然を利用したエコツーリズムが盛んな国であるとともに、再生可能エネルギー推進国で、国内電力のなんと93%を再生可能エネルギー（水力、地熱、風力他）でまかなっているそうです。

サンホセ日本人学校は、そんなコスタリカの首都サンホセに位置しています。全校生徒は小中学部合わせて11名（一時帰国児童2名含む）と小規模校ではありますが、「日本よりも日本らしく、世界に羽ばたくグローバル人材を育成する」という学校目標のもと、その良さを生かしながら日々の教育活動に励んでいます。

コスタリカではコロナウイルスの感染者が少ない2020年3月下旬より、外出自粛、車のナンバーによる運転規制、国立公園、ビーチの閉鎖など生活面において様々な規制が始まりました。またすべての教育施設も閉鎖となり、本校もそれに従い令和2年度の入学式も延期となりました。オンライン授業はその年の12月まで続き、学校が再開した現在でも学校行事や現地校との交流等も中止となるなど、国の方針でいつ教育施設が閉鎖となるか不安定な状態ではあります。しかし小規模校でICTが充実しており、ipadが学校から児童・生徒に貸し出されるなどスムーズにオンライン授業を進めることができました。

学校が再開となった今では、児童生徒が業間休みに全校で一緒に遊ぶ「アニモタイム」や講堂にて全校みんなで食べる弁当を楽しんでいます。

今回コロナ禍で体験したオンライン授業は正直苦労の連続でした。しかしオンライン授業を通してICTを活用した学習支援の良い面も見え、試行錯誤する中に新しい教授法も見つけることができました。帰国後には困難な状況で得たその経験を、児童生徒と直接行える授業の中で生かしていきたいと思います。



マンゴーの樹がそびえる広い校舎



ラジオ体操 オンラインでの全校朝の会



学習発表会での太鼓演奏



全校でお弁当 先生たちも一緒に